

会 議 録

(6-1)

会議の名称		令和7年度 第1回 春日部市地域福祉計画審議会			
開催日時		令和7年7月8日(火)		開 会	午前 午後 1時15分
				閉 会	午前 午後 2時11分
開催場所		春日部市役所 ひだまりホール			
議長(会長等)氏名		小川 孔美			
出席者	委員氏名	(出席人数：9人) 小川 孔美、村田 美由紀、岡本 文雄、竹内 和子、中村 高子 西片 麻美、野村 善晶、飯田 朋宏、柳橋 春子			
	説明者 その他	(出席人数：1人) 福祉総務課福祉総務担当主幹 伊林 圭			
	事務局	(出席人数：6人) 福祉部長 戸張 昌代 福祉部次長兼福祉総務課長 高橋 浩一 福祉総務課福祉総務担当主幹 川口 英典 福祉総務課福祉総務担当主幹 伊林 圭 福祉総務課福祉総務担当主査 福嶋 佑介 福祉総務課福祉総務担当主任 田村 規子			
次第及び公開・一部公開・非公開の区分		次第 1 開 会 2 委嘱状交付 3 市長あいさつ 4 議 事 令和6年度春日部市地域福祉計画の進捗状況の報告と評価について 5 その他 6 閉 会 公開区分：公開			
一部公開・非公開の場合はその理由		☐ 要綱第3条第1号該当： ☐ 要綱第3条第2号該当： ☐ 要綱第3条第3号該当： ☐ 要綱第3条第4号該当：			
配布資料		令和7年度第1回春日部市地域福祉計画審議会会議次第 春日部市地域福祉計画審議会委員名簿 春日部市地域福祉計画 令和6年度 事業別目標シート(資料1) 事業別目標シートの評価方法について(資料2) 総合評価シートの計算方法について(資料3) 令和6年度 春日部市地域福祉計画 総合評価シート(資料4) 令和6年度春日部市地域福祉計画 総合評価シート【公表用】(資料5)			

会議録の作成方法	☐ 録音テープ等を使用した全文記録
	☒ 録音テープ等を使用した要点記録
	☐ 要点記録
会議録署名の指定	会長による署名

発 言 者	発言内容 ・ 決定事項
事務局	【1 開会】
事務局	【2 委嘱状交付】
副市長	【3 市長あいさつ】
事務局	【4 議 事】
議 長	令和6年度春日部市地域福祉計画の進捗状況の報告と評価について、事務局より説明をお願いいたします。
事務局	《進捗状況と評価について説明》
議 長	ただいまの説明につきまして、委員の皆様からご質問等はございますか。
委 員	事業別目標シート（資料1）について、全施策の約4割が質的な評価ですが、客観的な数値目標が設定されているわけではなく、課によって評価に差があるため、事務局が集計する際に評価方法を統一する必要があると思います。事務局での統一が難しいのであれば、春日部市地域福祉計画推進委員会において議論が必要ではないかと思いました。
	他方、量的評価事業については、評価結果に疑問が残るものがあります。事務局の説明では達成率によって機械的にパーセンテージが計算され、評価が決まってくるという説明でしたが、例えば54ページのボランティア活動の支援事業について、シートの令和6年度目標値は116件、実績値は87件なので、達成率としては75パーセントであり、本来はB評価のはずですが、C評価となっています。このように、事務局の説明と評価の違う事業がざっと読んだだけでも6事業ありました。
	このような状況の中で、各事業の詳細を知らない我々が、資料5に基づいて概ね計画どおりであるとの場で判断することは非常に難しいと思いました。

発 言 者	発言内容 ・ 決定事項
議 長	ありがとうございました。 他にご意見等はございますか。 [質問・意見なし]
議 長	事務局の皆様、いかがでしょうか。
事務局	おっしゃるとおりです。
議 長	春日部市地域福祉計画推進委員会で、もう少し評価のあり方や意味合いについて、具体的な審議を行うことは可能なのでしょうか。
事務局	春日部市地域福祉計画推進委員会での審議につきましては、関係各課が一同に集まることが難しく、まずは事務局で評価基準等について検討させていただきたいと考えております。
委 員	本来は本審議会にあがってくる前に、春日部市地域福祉計画推進委員会において、各担当課の判断で評価した質的な業務の評価について内容の整理を行い、外部に出ても矛盾がないような状態にしたうえで、最終的に本審議会に諮るべきだと思います。 市民目線で考えると、資料5だけを見てもどんな取り組みをしているのか、なぜ計画通りなのか全くわからないと思います。よって本審議会で概ね計画どおりであると結論付けることは難しいと思います。
議 長	ありがとうございました。 他にご意見等はございますか。

発 言 者	発言内容 ・ 決定事項
委 員	手話通訳に関する事業について気になったことがあります。 手話通訳に関する事業については、事業別目標シート（資料1）の50ページと34ページの2つの事業があり、主に市役所の障がい者支援課が中心となっていて行っています。50ページは手話通訳者養成講座、34ページは意思疎通支援事業です。 34ページを見ると、春日部市社会福祉協議会で担っている実際の手話通訳の派遣に関してはC評価となっており、理由として、派遣件数が減少しコミュニケーションの機会の確保に努める必要があると記載されていましたが、通訳者が少ないのではないかと感じました。 50ページの障がい者支援課の手話通訳者養成講座を見るとA評価ですが、通訳者が育っていないと感じられるので、評価方法の再検討が必要であると思いました。また質的評価と量的評価では、評価にかなりの差があると思いました。
議 長	ありがとうございました。 今のご意見に関して、事務局の皆様から何かございますか。
事務局	評価方法、評価基準等について、あらためて検証していく必要があると考えています。
議 長	承知しました。
委 員	他自治体で地域福祉計画等の策定や評価等に参加させていただいたことがあるが、ある自治体では審議会の場に、シートを提出した関係課の職員が全員参加しており、各委員からのシートの疑問点を参加者全員で共有するとともに、一問一答式でシートを作成した関係課の職員が挙手をして質問に答えるという方法をとっていたので、その場で結論を出すことができました。
議 長	ありがとうございました。

